

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1271500884
法人名	有限会社 徳志会医療研究所
事業所名	グループホーム 輝の杜
所在地 (電話番号)	〒297-0065 千葉県茂原市緑ヶ丘4-3-2 (電話) 0475-20-2511
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	2007/10/13

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	16 人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 3.7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3 階建て	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	124,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮本内科医院・緑ヶ丘歯科医院・医療法人社団三愛会・君塚病院・医療法人社団白百合会・大多喜病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中、病院が立ち並ぶ一角にグループホーム輝の杜がある。以前は病院であった建物はエレベーターも広く、居室には全て洗面所とトイレが設置されている。母体が隣接する医療法人であることから、医療体制は万全である。ベランダ・屋上には洗濯干し場や家庭菜園が作られており季節ごとの収穫を入居者が楽しみにしている。また、全職員が全ての入居者の介護計画に携わるなどサービスの質の向上へのこだわりが感じられ、温かみが伝わってくるグループホームだと感じた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	施錠のことで指摘を受け、その後検討した結果、防犯上玄関の鍵は施錠する事になった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価については理解をしている。評価により指摘された点を改善する事で、よりよいサービスの提供ができると考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長・老人会会長・民生委員・市職員・市議会議員・ボランティア・家族・職員を構成員として、入居者を中心とする課題や地域問題について話し合っている。今後は他職種の方にも参加を呼びかけ地域交流の増進とサービスの質の向上につなげたいと考えている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置し、意見等を汲み取る仕組みはできている。要望についてはその都度検討し、適切な対応をとることにより家族の信頼とサービスの向上に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に入会していると共に地域の行事には積極的に参加している。施設内での交流も増えてきており、地域の方々と入居者との親睦が深まってきている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域での生活を可能にする支援を目的とする理念を基本とし、職員の具体的実行手段に落とし込んだ事業所独自の理念を作り上げている。理念は誰もが常に見ることができる場所に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員は、日々理念を念頭に置いて業務を遂行し、介護の大切な目的及び使命と考えている。問題が起きた時は、職員は理念を再確認することでサービスの見直しをし、解決に結び付けている。また、理念に基づき入居者の意向を汲み取る手段として入居者の目を見て話すということを徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、夏祭り・もちつき・運動会・ゴミゼロ運動・バザーなどに参加している。地域の方々がお茶を飲みに来てくれることをはじめとして、近所との交流が増えたことにより入居者との親睦が深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価により指摘された点を改善する事で、よりよいサービスの提供ができると理解している。評価を受けることの意義を理解することに努め、月1回のミーティングで毎回改善のための意見を聞いたりすることでサービスの向上につなげていこうと前向きに取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長をはじめ多数の人に参加してもらい、入居者を中心とする課題や地域問題について話し合っている。次回の運営推進会議は、近隣の学校の先生と生徒およびおまわりさんに参加してもらいたいと考えている。行政と相談しながらテーマを検討することや立場の異なる人との交流を増やすことにより、サービスの向上につなげたいと考えている。		

【千葉県】グループホームホーム輝の杜

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員の方にサービス内容等についての助言をいただいている。運営推進会議にも出席していただき、情報交換が容易で共有化も図りやすい。また、職員個人が市主催のキャラバンメイトにも参加をしていることで情報交換も頻繁に行われており、地域の変化の把握にも積極的に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	2ヶ月に1回通信を発行し、施設の状況を伝えている。また、入居者の生活状況を毎月文書で報告すると共に必要に応じて電話等により随時報告している。文書報告の便箋は入居者本人が色を塗り担当職員が状況を記入したり、時には入居者自身が直接記入する事もある。家族からは好評であり、とても感謝しているとの声もある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等を汲み取るために意見箱を設置している。今のところ苦情はないがサービスについての要望はあがっている。要望についてはその都度検討し、適切な対応をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入った時は、入居者の方に「色々教えてください」と声をかけることにより、相互関係の円滑化を図っていると共に家族にも通信で紹介している。退職者については、最後の日に退職者本人からあいさつをしている。また、ユニット間の異動も行っているが、特に支障がでないように配慮しており、入居者への影響はほとんど無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加しており、研修内容をしっかり記録している。月1回のミーティングの際、研修に参加した職員が講師として内部研修を行うことにより、研修内容の共有化が図られている。技術面については医師にアドバイスを受けるなど質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会に入っており、他のグループホームとの情報交換が行われている。今後は、勉強会・職員の交換などもしていきたいと考えている。また、茂原市内のグループホームの連絡会が発足できるように市役所の方に働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居する前には必ず見学に来てもらっている。また、希望があれば体験入居も受け付けている。しかし、見学については、家族のみで行われることもあるので、本人も一緒に見学してもらうようお願いしている。入居後、帰宅願望がある場合は、一緒に入居者の自宅に行くこともある。なるべく本人の意向を尊重しながら、落ち着いた生活ができるように支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の暮らしは入所者のペースで行われている。職員と入居者で共同作業を行うことによりもの大切さを学ぶと共に、喜びや感謝を共感している。共同生活に相互の存在感が認識できる関係作りに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントはセンター方式を導入しており、職員全員で入居者の意向を検討している。また、意向の把握が困難な場合であっても、それぞれが相手の立場になって意見を出し合い検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスを職員全員で行い介護計画を作成している。アセスメントはセンター方式を使用し、職員全員で入居者の把握に努めている。また、家族との意見交換も行う介護計画に反映させる取り組みもしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングを職員全員で行い家族と意見交換をした上で、定期的に介護計画の見直しを行っている。また、生活状況に変化があった場合にはその都度見直しを行い、家族に報告している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されており、利用者との交流も図られている。また、グループホームでの入浴が困難な方には、デイサービスの機械浴を使用している。入居者が入院したときは積極的に入院中の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している医療機関に定期的に受診をしている。また、医療機関は自由に選択ができ、入居者の希望があれば、これまでのかかりつけ医への受診も支援している。医療機関に家族と職員が共に行き、病状に応じた正確な情報を提供することもある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの支援もおこなっている。最後まで入居者と家族の意向に則した柔軟なケアを行うことを基本とし、職員と終末期に向けた方針の共有を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録などの書類は事務室の書庫に厳重に保管しており、個人情報の保護が徹底されている。また、申し送りなどは、入居者不在の場所で行われており、プライバシーにも配慮されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中に入居者の意向と体調を確認し、その日の活動を決めている。日々の暮らしは基本的に本人のペースで過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2階のユニットは片付けが得意な人が多く、3階は調理が得意な人が多い。買物や献立作りを含めた食事作りを共同で行うことにより、食事を楽しむことに心がけている。入居者の嗜好や機能に合わせた食事を提供している。また、食事の見た目も同じになるように工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日実施できるような体制を作っており、入居者の希望に応じて実施している。入浴を拒否される方にたいしては、日々試行錯誤を繰り返して入浴実施につなげている。入浴剤を使用することで、入浴が楽しみなひと時になるような工夫もしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの好みに応じて有意義に過ごせるように支援している。また、各行事の報告書には参加者のコメントを記入することにより、充実した行事作りに取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	シルバーカーを使い買い物に出かけることが多い。散歩も日課になっており、職員が交代で対応している。また、外食会や市内の催し物にも出かける機会を増やしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠はしていないが、玄関は防犯上施錠している。		施設の構造上、玄関に目が届きにくい状況は理解できる。今後は、職員の見守り体制を再検討し、なるべく鍵をかけない方針を考えていただくことを希望します。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に災害訓練は行っており、消防署の方に指導をいただきながら災害対策を検討している。火災マニュアルが掲示してあると共に、消防署直通の非常通報装置もあり、火災時の対策もとられている。		事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加を得ながら災害時における地域との協力体制を築いていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に応じて食事を提供しており、ほとんどの方が全量摂取している。摂取量が少ないときには医師の指導のもとに栄養補給を行っている。食事及び水分の摂取量は記録でしっかり管理されており、問題がある場合は適切な対応がとられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間及び居室はとても明るい。廊下に集う場所が設けられており、入居者同士のコミュニケーションの場を提供している。施設内の所々に保育園の園児からのプレゼントが飾られており、共用空間の掲示物には、外出会の写真、共同作業による手作りの作品、入居者が書いた書道がある。食堂から見えるベランダには小さな花壇があり四季の移り変わりを感じさせてくれる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室であるが、畳を敷くことも可能である。入居者の希望があれば馴染みの家具を持ち込むこともできる。心地よい生活ができるように家族の協力も得ている。		